

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	ジモ活～地元で活動・活躍・復活しませんか～	
事業の実施者	団体等	社会福祉法人横浜市金沢区社会福祉協議会
	行政	横浜市金沢区地域振興課地域力推進担当 区民活動センター「ゆめかもん」
事業の目的	<p>住民による「たすけあい」の地域社会実現に向けて、自らの経験や趣味、特技等を生かしながら地域の活動に参画し、身近な地域の課題を解決することのできる人材の輩出・育成を図る。</p> <p>また、意欲のある住民と地域活動団体とをつないでいくことで、「協働による地域づくり」を目指す。なお、本年度は、地域からの推薦枠に加え一般公募することにより、地域活動の担い手の輩出を一層推進する。</p>	
事業の内容	<p>今年度は、従来からの区社会福祉協議会に加えて、区民活動センターとも企画から協働し、事業終了後に受講生が地域の担い手として活動できる事業とし、「講座3回」と「活動体験・見学」を実施した。</p>	
役割及び責任分担等	別紙「市民協働事業「ジモ活～地元で活動・活躍・復活しませんか～」に関する協働契約書」参照。	
実施期間	令和4年12月10日から令和5年1月28日まで	

記入日	令和 5 年 3 月 1 日
記入者	<ul style="list-style-type: none"> ・団体等名： 社会福祉法人 横浜市金沢区社会福祉協議会 ・記入責任者 氏名： 事務局長 美戸 孝紀 連絡先： 045-788-6080
	<ul style="list-style-type: none"> ・部署名： 横浜市金沢区地域振興課 ・記入責任者 氏名： 地域力推進担当課長 渡邊 孝之 連絡先： 045-788-7809

2 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「3 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		金沢区社協	金沢区役所
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	A	A
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	B

②事業実施段階

		金沢区社協	金沢区役所
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	D	B

③ふりかえり段階

		金沢区社協	金沢区役所
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	A	A
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり
<p>(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)</p>
<p>【共有できたことや認識に違いがあったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業目的、目標及び手法について、共通認識を持って取り組めた。 ・今までの地域推薦の募集だけでは、新たな人材の確保が難しい状況にあることを共通認識し、一般公募も行うことの合意ができた。 ・地域活動のとらえ方に幅があったように感じる。 ・区社協、金沢区地域振興課及び区民活動センター「ゆめかもん」が協働したことによって、より幅のある講座を計画できた。
<p>【今後改善が必要と思われること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動のとらえ方の共通認識を整理する。 ・講座終了後のフォローの仕組みを構築する。 ・事業内容の検証（講座内容を、講座受講後の活動のものとするのか、今回のように「体験」で終わらせるのか、それらを隔年でするのかなど）。 ・参加者を増やすため、他の中間支援組織である地域ケアプラザや活動団体等に本事業を周知する。 ・自治会・町内会との連携。 ・事業開始（事前打ち合わせ含む）時期を早めたい。
事業実施
<p>(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと。今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)</p>
<p>【共有できたことや認識に違いがあったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動のとらえ方に幅があったと感じたため、地域活動の対象も含め、再度共通認識の整理が必要。 ・地域からの推薦枠に加え、一般公募したことにより、参加者の幅が広がり、新たな担い手輩出の第1歩になったと考えている。 ・お互いの役割を自覚し、各々が積極的に動けた。 ・グループディスカッションの際に、ケアプラの方々がファシリテーターとして各グループに配置されたことで、スムーズに話し合いが進んだ。
<p>【今後改善が必要と思われること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験の振り返りとまとめ（第四回講座）の時間が十分ではなかった。一方、単純に講座回数を増やすことでは受講ハードルも上がるため、内容の見直しも検討すべきと考える。 ・年末年始も含み、体験期間が短く、また土日の活動が少なかった。体験期間を長くし、体験先の選択肢を増やす必要がある。 ・地域からの推薦の場合は参加者が地元とつながっているため、講座終了後、自然と地元の地域活動につながっていったが、一般公募では地元とつながるためのしかけが必要。 ・講座終了後、具体的にやりたいことが決まっていない人の受け皿の一つに区民活動センター（ゆめかもん）が担っているが、併せて区社協ボランティアセンターの紹介など、講座終了後のフォローの仕組みを具体的に説明することが必要だった。 ・事業開始時期を早めるなど、年末年始を避けることによって、より多くの参加を促したい。 ・地域の担い手確保は継続的な課題であるため、受講者のフォロー及び新たな担い手輩出を継続実施していく必要がある。 ・事業の進捗状況をホームページや会報等を使って市民に発信したい。
事業の成果
<p>(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・一般公募することにより、年齢層も含め地区からの推薦では把握できなかった人材を把握することが出来た。 ・講座中も含め、講座をきっかけとし、継続して活動参加を望む声が多くあった。 ・協働することにより、幅広く参加者確保につながり、また、幅広い活動団体との連携やフォローが可能となった。 ・講座参加者が、自らの経験や趣味、特技等を生かしながら地域の活動に参加し、様々な「気づき」を

持ち帰った。

- 区民活動センター（ゆめかもん）は、講座後の受講者の受け入れ先としてフォローしていく。12名（受講者の約半数）がOB・OG会に参加してくれているので、これから地域で活躍できる人材として成長できるよう、見守っていく。
- 協働したことで、区民活動センター（ゆめかもん）としても相談窓口が増え、情報共有・交換がスムーズになった。
- 志の高い受講者を講座終了と共に「各自で活動してください」と突き放すのではなく、体験した団体への入会や、区民活動センター（ゆめかもん）での事後サークル支援へと繋げることができた。それにより、「ジモ活から地域活動へ」という一つ道筋ができたと感じた。

自由記入欄

- 協働することのメリットを多く感じた。これからも、情報交換することによって、各々の強みを生かしながら、事業展開できればと思う。
- 協働することで、企画した以上の結果を得ることができた。予算の関係、人材等、これからも必要であると感じた。